

令和6年11月27日、市の水道事業は

本市が世界に誇る水道事業100年の足跡を振り返るとともに、
記念事業についてご紹介します。
この機会に本市の水の豊かさを再認識し、未来へつないでいきましょう。

水道事業100年の歩み

明治22(1889)年～

創設期



バケツで水くみする女性たち

当時は寒暖差が激しいうえ伝染病の発生も多く、第3代辛島市長が上下水道の完備を推進。大正元年、上下水道布設事業計画を市会へ提出したことが市水道事業の始まりです。

大正11(1922)年～

創業期



送水管布設工事

立田山中腹に配水池築造工事が始まり、大正13年11月27日に上水道が完成。市民は台所の蛇口をひねれば良質な水道水を自由に使えることに驚嘆しました。

昭和12(1937)年～

戦時下と復興期



熊本大空襲直後の花畑町一帯(昭和20年)

人口と使用量の増加により必要供給量をまかないきれず時間断水を余儀なくされるなか、戦後は老朽化した施設の更新、戦災により破損した管の修復、進駐軍へ優先給水などのため配水量の増加対策が急務となりました。

昭和50(1975)年～

充実期



管理センター

昭和57年に庁舎別館が建設され、複雑化した水管理と多数の水道施設を安全かつ円滑に運用するため、最新通信技術と演算機能を活用して総合管理システムを設置しました。

平成元(1989)年～

平成前期



まっ黒になった車を洗う市民

平成3年6月3日、雲仙普賢岳の噴火により本市にも大量の火山灰が降り注ぎました。翌日、1日あたりの配水量は300,085m³を記録し、100年の歴史の中で最多配水量を記録。

平成28(2016)年～

平成後期～現代



応急給水にできた長蛇の列

平成28年4月に発生した熊本地震は水道施設にも大きな被害をもたらし、市域全域が断水。他市からの支援もあり、この最大の危機から再び立ち上がることができました。

100周年記念事業



本市にホームを置くプロスポーツ4チームと連携協定を締結。各ホームゲーム時にボトル用給水機を設置するなどし、熊本の水のすばらしさをPRしてきました。また、今回、水道100周年を記念しプロスポーツチームとコラボした消火栓用デザインマンホールが完成!花畑広場周辺に設置したので、トレジャーハンター気分ですべて探してみよう。



ロアッソ熊本
(サッカー)



熊本ヴォルターズ
(バスケット)



フォレストリーヴズ熊本
(女子バレー)



火の国サラマンダース
(野球)

